

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>(1) ア 自然環境と歴史</p> <p>世界史へのいざなぎ</p> <p>歴史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。</p> <p>イ 日本列島の中の世界の歴史</p> <p>日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。</p> <p>ア ユーラシアの諸文明</p> <p>自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。</p>	<p>*自然環境と歴史</p> <p>世界史は世界の諸地域を対象としており、その自然環境も多様で、地域ごとの資源、産業、生活条件は異なり、歴史的事象はそうした立地条件によって大きく左右されることに気づく。</p> <p>*日本の歴史と世界の歴史のつながり</p> <p>日本史も世界史の一環であり、世界全体の動きが日本での歴史的事象に影響を与えていることは、先史時代以降常に存在するが、特に近現代において密接な関わりを持つことに気づく。</p> <p>*ユーラシアの諸文明</p> <p>アレクサンドロスの征服により成立したヘレニズム国家は、ギリシア世界とオリエント世界を統合し、ローマ帝国によって地中海世界とオリエント世界が一体化したことを理解する。</p> <p>アーリア人のガンジス川への進出以後、バラモン教の祭祀万能に飽き足らない、クシャトリアやヴァイシャなどに仏教やジャイナ教が広まり保護されたこと、マウリア朝、クシャナ朝、グプタ朝、ヴァルダナ朝などの歴代王朝の時代に、古典インド世界が成立したことを理解する。</p> <p>秦の始皇帝による中国統一と、法家の思想に基づいた官僚支配の成立について知る。こうした専制的な中央権力が、官僚を使って中国全土を支配する体制が、現在に至るまで中国の国家体制の基本として続いていることを理解する。</p> <p>イスラムの教義と禁忌について知り、イスラム教徒として生活するには、社会全体がシャリーアに基づいていることが必要なことを理解する。</p> <p>西ヨーロッパには領主と農奴よりなる自給自足の荘園制が広がり、西ヨーロッパ全体を結びつけていたのが、ローマ=カトリック教会であることを知り、荘園制と封建制とローマ=カトリック教会</p>	

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>(2) イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p> <p>エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中で日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p>	<p>が、西ヨーロッパ中世社会を成り立たせていたことを理解する。</p> <p>*結び付く世界と近世の日本 ルネサンスと宗教改革がヨーロッパの人々の精神的、思想的革命であったことを理解する。 大航海時代以降のヨーロッパのアジア、アフリカ、アメリカへの進出と、商業貿易活動について知る。 主権国家の成立と王権の強化によって弱体化した封建貴族が、経済的・政治的実力を高めた市民階級によって、市民階級中心のヨーロッパ近代社会が成立する過程が、市民革命であることを理解する。 本国イギリスからの独立が市民革命となったアメリカ独立革命と、典型的な市民革命のパターンを見せたフランス革命の違いに注目する。</p> <p>*ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 資本、労働、技術の三者の変化と革新が、産業革命に不可欠であったことを理解する。 産業革命以降ヨーロッパの植民地獲得の目的が、商業貿易の拠点の確保から、工業製品の市場の確保に変化していったことを理解する。</p> <p>*アジア諸国の変貌と近代の日本 産業革命以降ヨーロッパの植民地獲得の目的が、商業貿易の拠点の確保から、工業製品の市場の確保に変化していったことを理解する。 オスマン帝国をめぐる東方問題は、ヨーロッパ列強諸国とアジア、アフリカ諸地域との関係の変化であることを理解する。 オスマン帝国、カジャール朝のイラン、アヘン戦争以降の清などは、半植民地化の例であることを知り、直轄植民地とされたインドとタイを除く東南アジア諸国の場合との違いを理解する。</p>	

学習指導要領		都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>(3) ア 急変する人類社会</p> <p>地球社会と日本</p> <p>科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</p> <p>イ 世界戦争と平和</p> <p>帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>ウ 三つの世界と日本の動向</p> <p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題</p> <p>1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p>	<p>列強諸国による植民地化を避けつつ、産業化、近代化を成し遂げた日本について理解する。</p> <p>*急変する人類社会</p> <p>欧米列強諸国における独占資本主義経済の成立について理解し、これらの諸国の経済が不断の植民地拡大を必要とする帝国主義国家に変容していったことを理解する。</p> <p>帝国主義諸国による植民地支配に対して、植民地支配下のアジア、アフリカの諸民族による抵抗運動について知る。</p> <p>不断の植民地拡大を必要とする帝国主義国家同士の、植民地をめぐる抗争について知る。</p> <p>*世界戦争と平和</p> <p>第一次世界大戦が、植民地獲得競争のいわば最終戦であることを理解する。</p> <p>世界大戦が帝国主義諸国の矛盾を拡大し、社会主義革命や挙国一致内閣の成立、ドイツ帝国の崩壊につながったことを理解する。</p> <p>第1次世界大戦以後、欧米諸国を中心の大衆社会が出現し、大衆動員の政治運動としてファシズムが出現したことを理解する</p> <p>*三つの世界と日本の動向</p> <p>米ソの冷戦が資本主義、自由主義と社会主義の間の単純なイデオロギー対立ではなく、アジア、アフリカの民族独立運動を巻き込んだ複雑な内容を持つものだったことを理解する。</p> <p>*地球社会への歩みと課題</p> <p>冷戦の終結後旧ユーゴスラヴィアに代表される地域、民族紛争が多発する一方で、EU統合やASEANの強化など地域統合も進展していることを理解する。</p>	

学習指導要領	都立世田谷総合高校 学カスタンダード
<p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>*持続可能な社会への展望</p> <p>世界の情勢に関心を持つようになる。</p>

